

国道8号親不知地区の防災対策方針として 山側バイパスによる別線整備ルート（案）が妥当と判断 ～ 高田河川国道事務所管内防災検討委員会 検討結果 ～

このたび、高田河川国道事務所管内防災検討委員会において、国道8号「親不知地区」の防災対策方針（山側バイパスによる別線整備ルート（案））がまとまりましたので、お知らせ致します。

今後、ルート（案）について、適宜、調査を行いながら詳細な検討を進めて参ります。

【高田河川国道事務所管内防災検討委員会】

高田河川国道事務所が管理する国道を対象に、災害危険箇所や大雨等による事前通行規制区間等について、通行止めの実績や施設点検結果などから、優先区間の設定や対策内容の検討を行うにあたり、有識者から技術的意見や助言をいただくために設置。

お問い合わせ先

■ 副所長（道路） ひぐち のりお 樋口 徳男
TEL：025-523-3136（代表） FAX：025-526-0411
国土交通省北陸地方整備局 高田河川国道事務所
じょうえつし みなみしんまち
〒943-0847 上越市南新町3番56号 <http://www.hrr.mlit.go.jp/takada/>

1. 高田河川国道事務所管内防災検討委員会

目的

高田河川国道事務所管内の防災対策を進めるにあたり、防災に係る事業の必要性や緊急性を踏まえた優先区間の抽出及び対策内容に関して検討するとともに、高田河川国道事務所の作成した対応方針等について、専門的、技術的な知見から意見・助言することを目的に設置。

高田河川国道事務所管内防災検討委員会 開催経緯

令和2年 2月13日 第1回 開催
令和2年 3月 第2回 書面開催

北陸地方整備局防災検討会議 委員名簿

	氏名	所属・役職
◎	大塚 悟	長岡技術科学大学 教授 (自然災害・防災)
	佐野 可寸志	長岡技術科学大学 教授 (交通)
	伊藤 始	富山県立大学 教授 (コンクリート)
	松平 信治	北陸地方整備局道路部道路調査官
	遠藤 正樹	北陸地方整備局高田河川国道事務所長

◎委員長



高田河川国道事務所管内防災検討委員会 開催状況

2. 優先的に対策すべき区間

- 管内の防災対策優先区間※は3区間あり、事前通行規制、構造物の老朽化、防災点検要対策箇所、特殊車両通行規制などの課題が多く存在する「子不知～親不知地区」の対策優先度が最も高い。
- 「子不知～親不知地区」内で最も課題が多く存在する「親不知地区」について優先的に対策を検討する。

※北陸地方整備局防災検討会議（3回開催（令和元年8月～11月））において、北陸地方整備局管内の直轄国道を対象に、災害危険箇所や事前通行規制区間、冬期障害箇所等について、通行止めの実績や施設点検結果などを踏まえ、防災対策優先区間を抽出。



3. 「親不知地区」の課題

- 国道8号「親不知地区」は事前通行規制区間が存在し、通行規制に伴う宿泊施設の孤立、北陸自動車道との同時通行規制による集落等の孤立や、落石・崩壊の防災点検要対策箇所等災害危険箇所が存在するなど課題を抱える。
- また、洞門等主要構造物の老朽化と補修工事に伴う規制や、急カーブなど物流の支障となる道路構造上の課題を抱える。

防災上の課題



事前通行規制区間の雨量規制による通行止め



斜面上の浮石状岩塊（8m程度）
（防災点検要対策箇所（落石・崩壊））



R8富山新潟県境198.4
豪雨時など北陸道と国道8号の同時通行止め時には渋滞が発生

道路構造上の課題



急カーブ区間

老朽構造物の課題



塩害による洞門鋼製部材の腐食

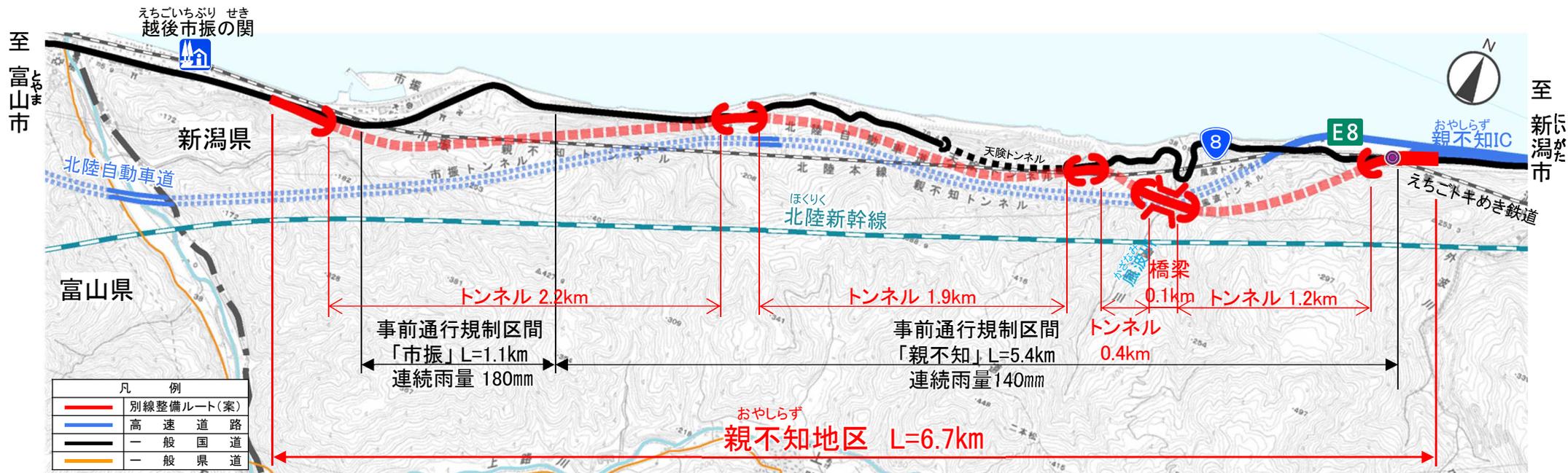


急カーブ・急勾配区間での立ち往生車両

4. 国道8号「親不知地区」の防災対策方針

【対策方針】

- ・以下の理由より別線ルートによる抜本対策を進める。
 - ①現道を利用し続ける場合、急カーブおよび急勾配が改善されない。
 - ②急峻で脆弱な地質であり、新たな箇所でも落石・土砂崩壊が出現しているため、洞門更新等による現道対策による通行規制の解消（危険箇所の完全な除去）は困難な状況。



■ 今後の検討課題

※構造物の延長等は今後の調査・検討で変更になる場合があります

- 隣接する「子不知地区」においても防災上の課題を有することから、引き続き「子不知地区」の対策方針の検討を進める。
- 最新のICT技術を踏まえた情報通信や、災害や塩害・老朽化に強い道路にするための技術的検討を進める。